

長者屋敷遺跡（史跡伊勢国府跡） 第 29 次発掘調査 現地説明会資料

所在地 鈴鹿市広瀬町字中土居 1299 番 1
 調査目的 学術調査
 調査期間 平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日
 調査面積 62㎡（1 月 31 日現在）
 調査主体 鈴鹿市考古博物館

1 遺跡の概要と過去の経緯

長者屋敷遺跡は鈴鹿市広瀬町に位置し、一部は亀山市にも及びます。遺跡の中心部分の範囲は南北約 800 m、東西約 600 m ほどです。その北端には「金藪（かねやぶ）」と通称される盛土遺構があり、長者伝説の舞台として知られています。

平成 4 年度に国・県の補助を得ながら学術調査を開始し、平成 5 年度の調査で国庁部分の確認により伊勢国府跡であることがわかりました。平成 14 年 3 月 19 日に遺跡の一部である 73,940㎡が伊勢国府跡として国の史跡に指定されました。

その後の調査で遺跡の北半には平城京に類似した方格地割が存在することがわかり、その南北中心線上には幅 24 m の道路（南北大路）があることがわかりました。この南北大路は国庁と金藪を結ぶ中軸線に一致します。

今年度の調査は 20 年目にあたり、土木工事等に伴う緊急調査を含め 29 回目の調査となりました。

2 発掘調査の成果

遺跡北端に位置する「金藪」の西において調査を実施しました。今回の調査は第 25 次調査（平成 20 年度）の際に金藪の東において見つかった溝の続きを確認するとともに、遺跡北辺部の状況を明らかにするためのものです。

調査の結果、第 25 次調査の溝 SD310 に対応する東西方向の溝 SD328 がトレンチ C から見つかりました。SD328 の西端と SD310 の東端の位置は金藪・南北大路・国庁を結ぶ南北中軸線に対してほぼ対称的な位置にあり、SD328 の東端と SD310 の西端は未確認であるため、両者が連続する溝か否かについては不明です。いずれにしても、金藪の北辺にほぼ一致し、これらの溝を越えた北側は遺構の分布が希薄になることから、国府関連施設の北限にあたる溝であると考えられます。

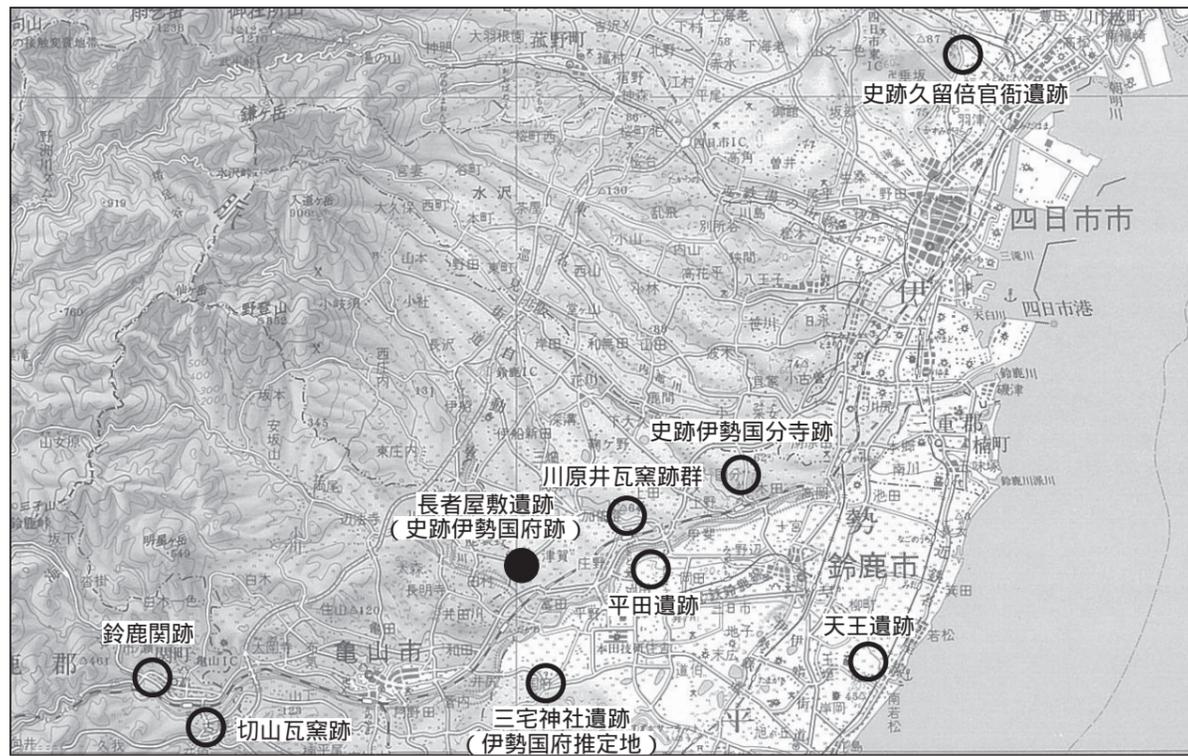
同じく第 25 次調査の溝 SD312・SD315 に対応する遺構の確認のためトレンチ A・B を設けましたが、全く遺構は確認されませんでした。SD312・SD315 は金藪の周囲をめぐる溝の可能性があったが、今回の調査で対応する溝が確認できなかったことによりその可能性は低くなりました。

SD328 は長さ 3.8 m 以上で、幅は 4.2 m 程度です。遺構の掘り下げを実施していないため、深さは不明ですが、第 25 次調査の SD310 では 0.5m ほどでした。SD328 の西端から SD310 の東端までの長さは約 63m です。SD328 からは検出時に少量の瓦片が出土しました。

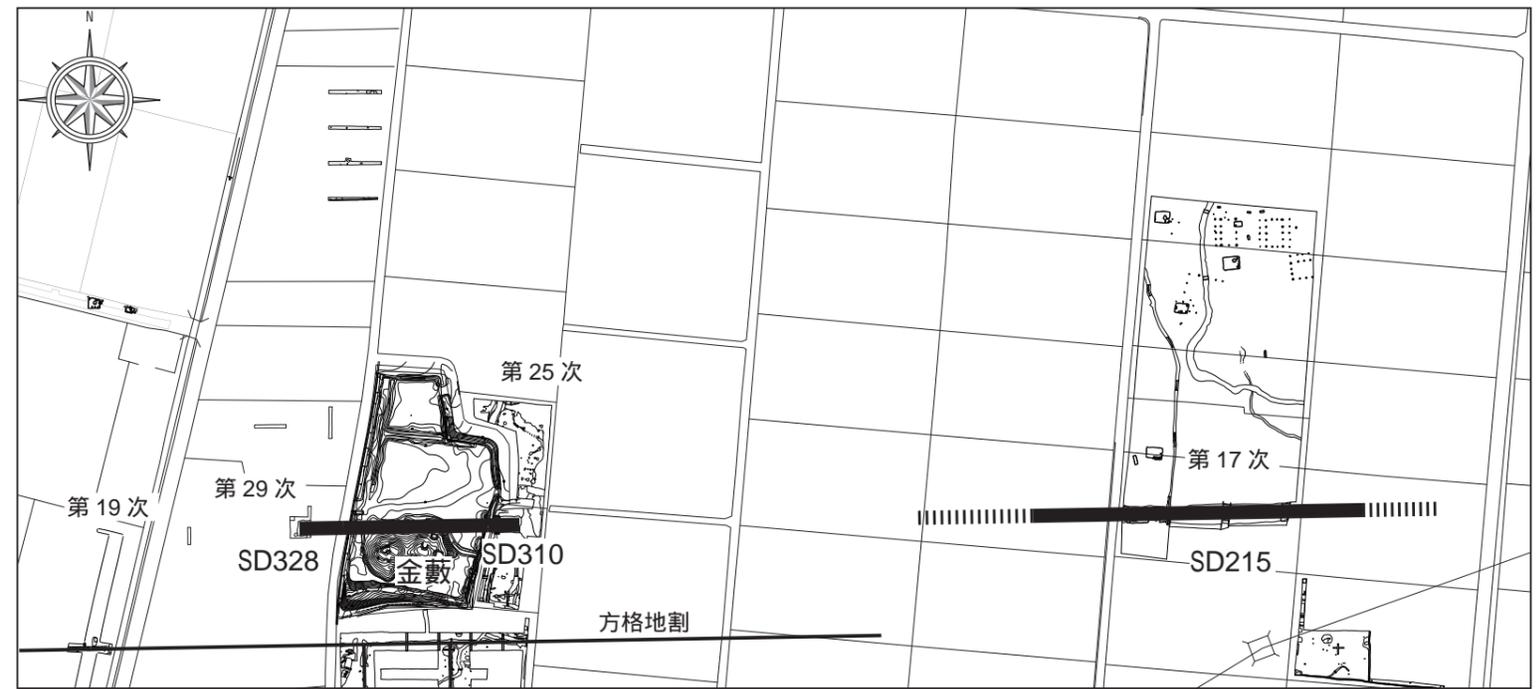


----- 方格地割想定ライン
 - - - - - 市境
 ■ 国史跡指定範囲
 ■ 発掘調査区

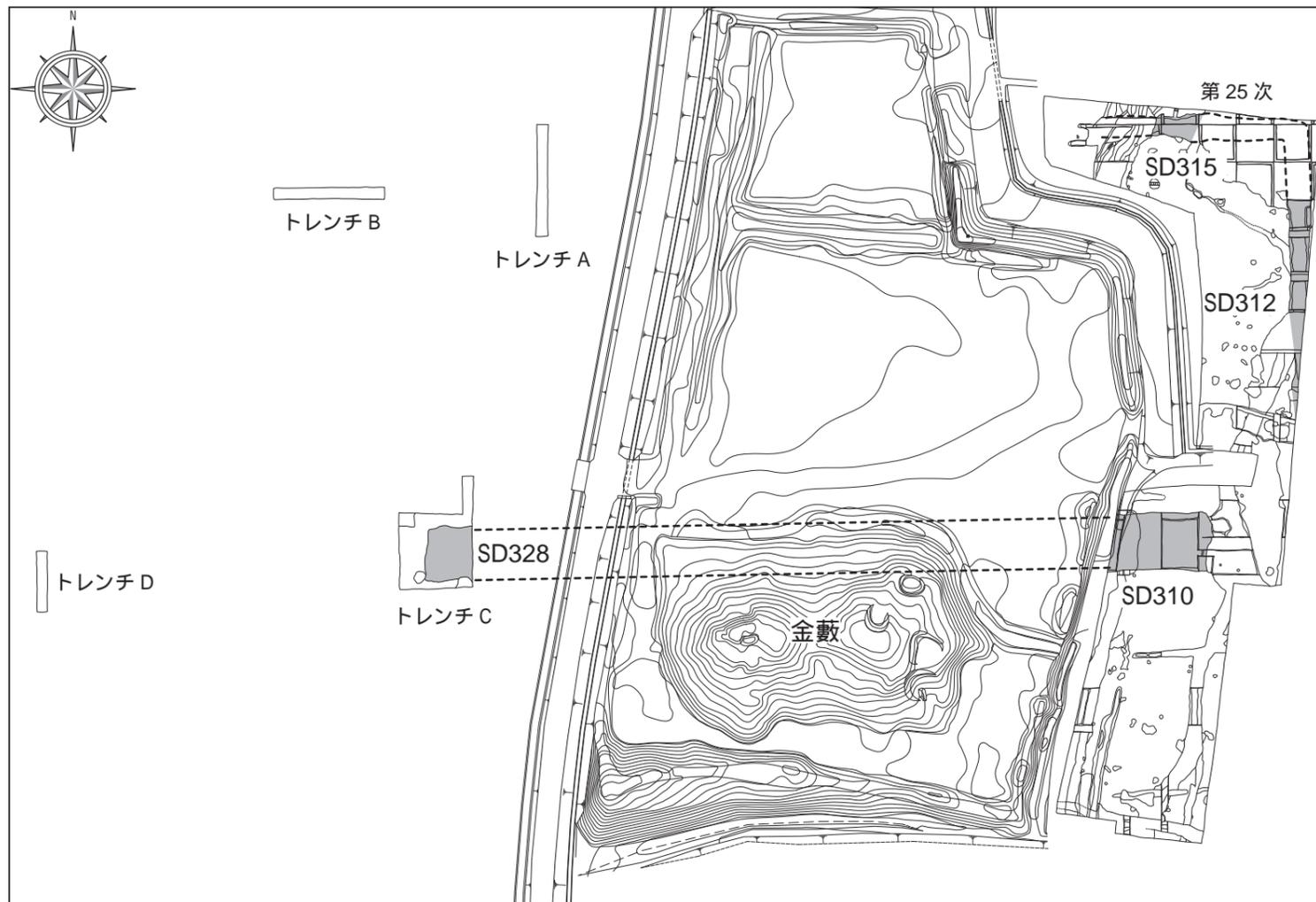
調査区位置図 縮尺 1 : 5,000



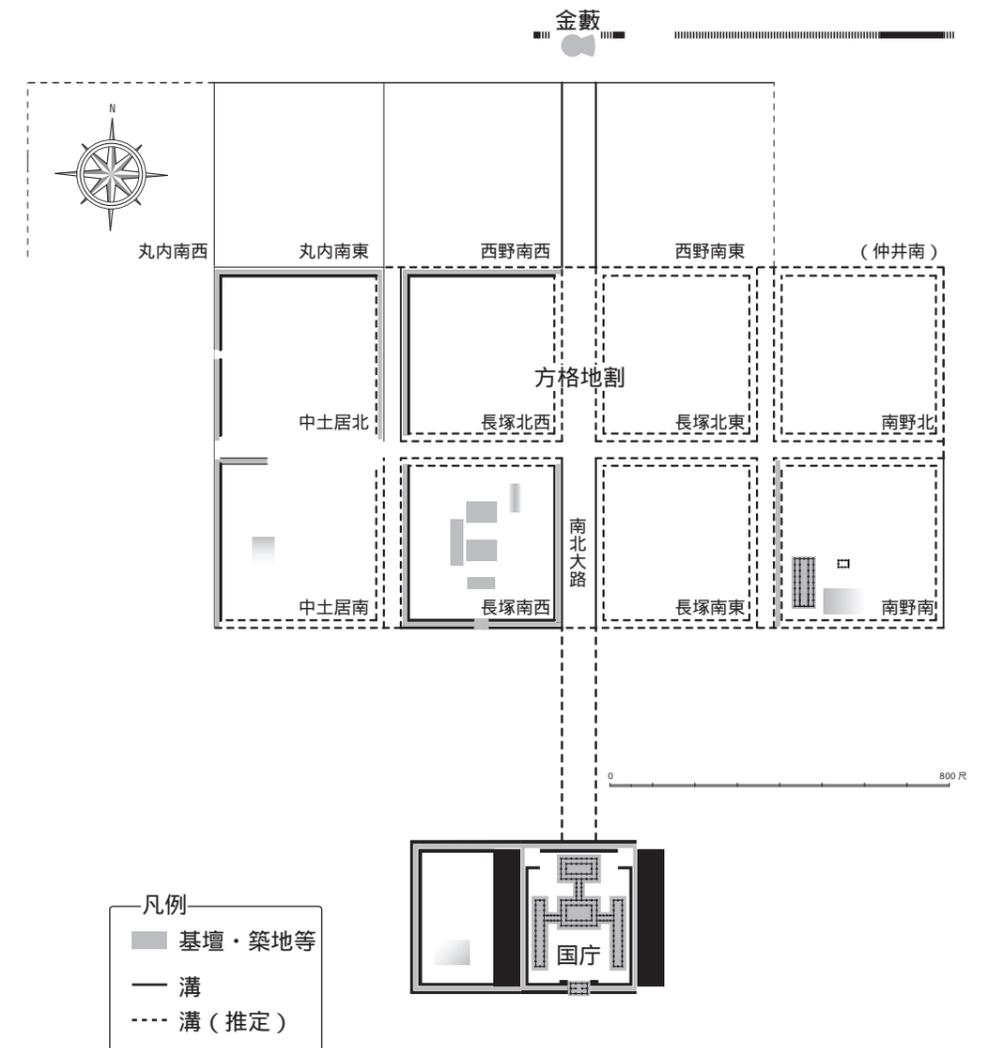
周辺の遺跡 縮尺 1 : 20 万 (国土地理院 20 万分の 1 地勢図「名古屋」を使用)



位置図 縮尺 1 : 2,000



位置図 縮尺 1 : 500



国庁・方格地割等模式図 縮尺 1 : 5,000